

「学習のしおり」による国語学習指導について

— 賀茂高等学校の場合 —

平野章

(共同研究者)

善	入	幸	雄	高	崎	ス	マ	子
塚	田	康	信	土	居	五	秋	
萩	久	人		浜	田	光	彦	
三	原	豪	之					

一、はじめに

本校国語科（広島県賀茂高等学校）では、個人的な随時作成による課題プリントを利用しての学習指導がさかんであったが、昭和三十八年度の教育課程改訂にともなう、「現代国語」の独立、教材の多様化によって、いちだんとさかんになり、共通の科目、単元には教師相互に利用が試みられてきた。

そして、昭和三十九年度は、これらの集成・整理（従来の資料記録などを、その段階でまとめる）として、「現代国語」の「学習のしおり」という課題集を発行した。（対象学年は、一・二学年。年二

分冊。約六十頁。）その後も毎年実践記録をもとにして改訂を加えて、現在（昭和四十二年度）にいたっている。さらに、昭和四十年代には、「古典乙」の「学習のしおり」をも作成し、それを利用して、学習の効率化をはかっている。なお、昭和四十二年度には、採択教科書を変更し、新しく「学習のしおり」を作成した。

このように本校国語科において、「学習のしおり」による継続的な学習指導が可能であったことは、国語科八名の教師の相互信頼と協力があったればこそと思われる。八名中の教師の年齢が比較的若いほうに集まっていることも幸いしたと思う。現在でも毎週一時間

は、国語科教師全員による研修談話会がもたれている。

今後さらに、共同研究と実践のもとに改善を加え、国語学習の効果をあげようと思う。

なお、このレポートは昭和四十年十二月第十三回広島県国語教育研究大会高校部会で資料としたものへ三度の改訂、追加したものである。

二、作成動機―現代国語を中心として―

A 国語学習の能率化

多くの学習内容を、限られた授業時間で消化させるためには、授業を能率化させるとともに、予習・復習を活発化させる必要がある。た。

B 生徒の学習活動（特に予習）の活発化

生徒は、何を、どのように学習すべきかわからないところから、十分な学習意欲をもたず低調な学習を続けているように思えた。そこで、学習活動（特に予習）を活発にするために、学習問題を与えて学習の方向づけをし、予習を義務づけようとした。

C 国語力の養成

1 読む力の養成

生徒は、学習の目標がわからず、問題意識も低く、従って、ともすると漫然と文章を読みがちであった。そこで、学習の目標を明確にし、その目標に沿った具体的な問題を用意して、能率的に問題意識をもって読む態度を養わせようとした。

2 書く力の養成

学習問題をといて、それをノートに書かせ、そのノートを指導す

ることによって書く力を養わせようとした。（思考の段階でまだ不明確であったものを書くことによって明確化できる。）

3 学習の発展

学習事項に関連のある参考問題（入試問題など）を用意したり、参考文献を紹介したり、読書指導を行ったりして、発展的学習を容易にし、反復練習をさせ、学習の発展をはかった。

D 個人差の解決

従来の問答法では、学力の低い生徒、じっくり考える生徒などは、時間不足のため授業時間中に十分に活動できないようであった。そこで、前もって問題を示しておいて、それらの生徒にもゆとりをもって授業をうけさせようとした。（問題も難易両方にわたって用意）

E 国語科教師の問題

1 教材研究の深化、能率化

国語科教師の個々の実践を、継続的に相互に利用することによって、教材研究を能率化し、深化しようとした。

2 共同研究の体制、意識の統一

3 共通評価

4 具体的な目標、問題があるため、指導事項のミニマムがおさえられ、教師相互間の基本的統一ができる。そのため、かえって個性的な授業が安心して展開できる。

5 教師の休暇、出張時の対策

三、作成過程と、作成上の留意点

A 作成過程（手順）

- 1 学習目標の設定と分担者の決定（共同）
 - a 学習目標の設定
 - ア 教材および科目の目標の確認
 - イ 教材の分折から
 - ウ 教科書全体の中での、各教材の位置づけ
 - エ 各教材の重点的指導事項
 - オ 過去の学習指導の反省から
 - カ 生徒の実態調査から
 - キ 各種テストの分析による生徒学力の把握
 - ク 生徒の感想文などによる興味、関心の把握
 - イ 各教材ごとの分担者の決定
 - 2 学習問題の原案作成（分担者中心）
 - a 学習目標の確認
 - イ 学習活動の想定
 - ウ 学習問題の作成
 - エ 学習問題の決定と編集（共同）
 - 3 学習問題の作成
 - イ 問題作成上の留意点
 - ウ 学習目標にそった設問
 - a 教材の分折

いままでも、教材に内在するすべての問題点を指摘し、どの教材からもすべて同じように用語に関する能力の全体を養おうとしてきた。学習のしかたの定着には役立つものの、そのために、用語の授業はたいくつとなり、設問の量は多くなって、生徒への負担が大きくなってきた。そこで、教材を十分に研究して、それぞれの教材がどのような能力を養うのに適しているかを検討して、何を教えるか、

- どう教えるかの目標をしばって問題を作成している。
- b 指導の体系化

読解指導を例にとると、読解力をこまかく分けて考え、さらにそれを系統的に練習させようという読解指導の体系が考えられるであろう。そして、それに応じて各学年の学習目標が設定され、学習問題は作成されなければならない。そういう指導の体系を確立する必要がある。

 - 2 生徒に興味をもたせる設問
 - a 生徒が解決できる設問
 - イ 生徒の能力に即した設問
 - ウ 留意のわかりやすい具体的な設問
 - エ ひとりよがりをさける
 - オ 論理的に考えると、正確に解答のでる設問
 - 3 生徒が、何のために、何を学習しているかがわかる設問
 - ア 各設問ごとに、指導項目を注記する。
 - イ 巨視的な設問で全体をとらえさせたあと、微視的な設問でそれを確認するというように、設問を有機的に配列する。
 - 4 徒の能力差に応じた設問
 - a やさしい（ある生徒にはつまらぬ）設問も用意する。
 - イ 平易なものから難解なものへと配列する。
 - c 予習必須設問を指示するなど、事前指導を徹底する。
 - 4 設問の有機的な配列

論理的な文章では、どのように段落を設定し、どのように要点をつかむか、それらをどのような順序で指導するかというような指導の体系をもっていて、それに応じた設問の配列をする。文学的な文

章では、人物・構成・主題などの指導項目をたて、それらにせまるような設問を順序よく配列するというように、設問を有機的に配列するのがのぞましい。

四、内容並びに構成

教材によって違いはあるが、現代国語の学習問題の内容、構成は次のようなものである。なお、古典もこれに準ずる。

I 導入

A 目標

B 導入的問題等

II 展開

A 全文通読による大要把握など

1 語句

2 感想。要旨主題等の想定

B 各段落ごとの分析、要点的把握など

○ 要点把握等の問題（論理的文章）

- ・ 中心文、中心語句
- ・ 文と文との関係（指示語・接続語）
- ・ 照応、対句表現

- 各教材の目標
- 興味の喚起等、読みの姿勢をつくる
- 既習関連教材の想起

- 学習活動を想定して、その流れにそって配列する。
- 巨視的把握の問題
- こまかな問題を段階的にとくことよって、巨視的把握をする。
- 形式段落を基準として一まとめに問題を配列する。

・ 強調表現

・ 文末表現

・ 事実と意見

・ 文章構成の型等（文学的文章）

・ 背景

・ 人物・心理・思想

・ 人物相互の関係

・ 事件やその展開

○ 文の構造等の問題

○ 語句語法等の問題

○ 文体表現等の問題

○ 段落相互の関係等の問題

C 全体のまとめ、確認

○ 要旨主題等の問題

○ 構成に関する問題

○ 文体表現等の問題

○ 作者作品等の問題

III 発展

○ 発展問題

○ 参考文献

○ 参考事項

○ AV教材の提示

○ 着眼点や、問題のねらいなどを示すこともある。

○ 授業ですべての問題をあつかうとは限らないし、

問題の配列順に授業を展開するともかぎらない

○ 小さな問題を数多くつくり、こまかく読ませる

○ ドリル的問題

○ 入試問題で、学習事項に関連のあるもの

○ 読書指導

五、学習指導の展開と指導上の留意点

「学習のしおり」は、あらかじめ生徒に配布しているので、生徒はその設問の解答をノートに書いてのぞむのであって、教室で生徒に与え、その場で解決させるのではない。そして、その予習を基礎として教室での授業は展開される。設問を、その配列のままにときさえすれば、授業は終るというのではない。その場のふんいきに従って、生徒の読みの心理に従って、教師の個性に応じて、発問の順序をかえ、設問を取捨選択し、問い方をかえて授業は展開される。

ところで、「学習のしおり」を使用しての授業形態には、次の五つが考えられる。

- 1 講義を中心とする方法
- 2 教師質問↓生徒応答を中心とする方法
- 3 生徒発表を中心とする方法
- 4 生徒質問↓教師解答を中心とする方法
- 5 グループ学習を中心とする方法

実際の授業に際しては、生徒の理解度、教材の難易度、生徒の予習の程度、授業の進度、設問の難易度とその配列状況等に応じた授業方法がのぞまれる。以下この五つの方法について、過去の実践にもとづいて反省してみた。

A 講義を中心とする方法

解答、とき方を教師が説明する方法である。無味乾燥になって生徒はたいくつし、興味を失いがちになるという欠点がある。しかも、生徒の予習状況を点検しにくいので、生徒ははりあいをなくし、予習をしなくなるといっておそれがある。一方設問が適切でない時や、

設問の配列が有機的でない時には、その欠点を補いやすいし、進度をはやくできるという長所がある。現在、難解な教材、特に論理的文章などでは、生徒の「学習のしおり」による予習をふまえながら、解答や解き方を教師が説明している。また、グループ学習など生徒中心に授業を展開する時、終結の段階で、要約、補足、関連事項などの講義が行なわれている。

B 教師質問↓生徒応答を中心とする方法

予習してきたことを、授業の流れのなかで指名して発表させる方法である。設問に従って、ただそれとときさえすればいいのだというように事務的に扱うのではなく、授業の流れの中で、クラスのふんいきの中で、発問の順序をかえ、問い方をかえて教材を読解していく。その際、生徒に指名して発表させ、予習を授業にいかすのである。

この方法では、単に生徒に解答させるだけだと、問答式になって授業は単調になってしまう。そこで生徒の発言をめぐって、それについて討議させるように授業を展開するのがぞましい。一方この方法だと生徒の予習も点検できるし、また設問が適切でない時や、設問の配列が有機的でない時には、授業中にそれをいいかえたり、配列しなおしたりして授業を進められるし、進度をも調節できるという長所がある。どんな種類の教材でも、どんな難解度の教材でも、この方法は有効である。従って、教室でもっとも多く使われている。なお、この方法による場合、授業の流れを板書して設問との関係を確認させたり、あらかじめ読解図(枠を作り、そこに解答をかきこむよう設問の番号をつけたもの)を生徒にわたして、設問と授業の流れを関係づけたりとすると、生徒の理解はふかまる。

C 生徒発表を中心とする方法

予習してきたことを生徒に発表させ、あるいは板書させて、それをもとにして生徒に考えさせたり、討議させたに用いる方法である。教材が平易で、設問の配列が有機的である場合、生徒の学習態度が良好な場合、この方法は有効である。しかし、そうでない場合、授業は混乱し、進度は遅れる。

現在、古典の学習で、口語訳を板書させてそれを添削する場合、現代国語で、文学的事項を調査させて発表させる場合などに、特にこの方法は用いられている。

D 生徒質問・教師解答を中心とする方法

予習を学習の主体とし、その助けとして「学習のしおり」があり、授業を、その質問の場合、整理の場合とする方法である。この方法は、予習してくる生徒と、そうではない生徒との学力差が拡大するという欠陥がある。従って、現在あまり行なわれていない。

E グループ学習を中心とする方法

設問について各自予習してきた解答をもちより、グループで、意見を交換し、討議し、解決していくという方法である。その際、教師の助言、授業を進行させるための司会は必要である。

この方法こそ、課題学習では、もっとも効果的な授業方法といえる。グループ学習では、楽しく解放的な気分での学習、そのために国語学習そのものに興味をもつ。また、意見がでやすい雰囲気であるので、授業は活発になり、その意見をもとに討議をつづけていくので、理解は深まる。そのために印象は強くなる。また、自分たちで問題を解決しようとする意欲が強くなって、学習への取り組みが真剣になる。事実、定期テストの成績をみても、グループ学習をし

たクラスと教師質問・生徒応答の授業クラスとは、かなりの差がある。また最も印象に残る教材を調査したところ、グループ学習をした教材が最も印象に残るという結果がでた。そして、生徒の希望する授業方法を調査すると、グループ学習が圧倒的であった。

文学的文章でも、論理的文章でも、この方法は有効である。特に難解な教材では、あとから、整理のための講義をすることが必要である。またあくまで生徒中心の学習であるので、設問の配列には注意を要する。たとえば、微視的な設問を順をおってといっているうちに、巨視的な把握ができるというような有機的な設問の配列でなければならぬ。次に、時間配当をよく考えて、進度を考慮して問題を作成しなければいたずらに時間を浪費することになる。そして、混乱をさけるため、各グループの学習状況を点検するために、バズセッション形態をとるのがのぞましい。

六 効果・問題点と、今後の課題

A 効果

「学習のしおり」に関するアンケートを全学年にわたってとったところ、「学習のしおり」を使用して効果があると答えたものが78%に及んだ。具体的には、どういふ点に効果を認めているかを次にまとめてみた。

- 1 予習、復習が容易である。
- 2 授業がよく理解できる。
- 3 学習目標がわかり、どこに重点を置いて学習すべきかがわかる。
- 4 読みがふかくなる。
- 5 学習の方法がわかる。など

B 問題点

1 自主性について

自分自身で問題をもって、自主的に学習しようという態度がそこなわれはしないかが問題点として指摘される。学習のしかたの把握のできた生徒、特によくなる生徒は、そこなわれるかもしれない。しかし、自分で問題をもって教室にのぞむ生徒があまりいない現状では、「学習のしおり」は必要である。むしろ、それによって、何を、どう学習すればよいかがわかるので、生徒は能動的に学習するようになる。つまり、自主性をやしなう動機づけになるともいえる。なお、自主性に関連して、生徒に自主的に問題を作成させ、それを解決させる試みもなされ、成功している。

2 興味について

「学習のしおり」では、課題学習をつづけてやることになるので、生徒の学習活動は単調になり、興味を失いやすいのではないかと、いうことが、問題点として指摘される。それについて、設問が生徒の能力に即していない場合、設問が出題者のひとりよがりや論理的必然的にとけない場合、その設問が箇条書的であって、有機的系統的に配列されていない場合、その設問に対する解答を与えさえすればいいという単調な授業形態をとった場合などに、生徒が興味を失うのであって、「学習のしおり」そのものに興味をもたないのではない。

C 今後の課題

ここでは課題学習の実践的成果として、「学習のしおり」をとりあげ、掘りさげてみた。

それは、もともとわれわれなりの、ひとつの試みであり、あがき

でもあった。A指導Vということばが許されるなら、これらの努力は、あるいは、教師の画一的な指導の容易さをねらったものであつたかもしれない。そこでは、自主的な生徒の活動はそこなわれ、伸びようとする生徒の自由な思考の芽を欠ぐことになりはしないかというところをおそれた。われわれが自己評価として、たえず心にかけてところは、実はこの点にあつたといえる。このことは、与える学習ではなく、育てる学習をねらっている本来的な目的に逆行することになるからである。

しかし、現実には生徒が喜んで使用し、生徒の質問の大部分も、「学習のしおり」から派生的に出てきている現状から、この冊子は、教科書傍用のプリントにとどまらず、なにをどう学び、どう理解するか、ひとつの手段になっていることにまちがいがあるまいと思われ

る。前述のような問題点があつても、それは「学習のしおり」の本質にかかわるものではなく、実は、それをいかに活用するかの働きかけにあるのではなからうか。

もちろん、われわれは、国語教育を推進して行くうえで、「学習のしおり」が唯一絶対のものであると考えているのではない。むしろ、この小さな働きかけが、自主的な学習の動機づけとなるという過程を大切にしたいのだ。

そこで、「学習のしおり」による国語指導をいっそう効果的にするため、内容の再検討を中心とした、問題のあり方や、設問の配列に鋭いメスを入れて行かねばならない。なによりも「指導の体系化」をめざした相互間の研修を現在進めている。

七 指導の記録（「学習のしおり」との関連を中心にして）

A 古典乙一。第一学年普通科。伊勢物語「筒井筒」（尚学図書）。二時間扱い。

目標 1、歌物語を読んで、その簡潔な表現の美しさを味わいとする。

2、いつの時代にも変わらない男女の愛情の機微に触れて、物語の世界のおもしろさをくみとる。

学習活動	指導上の留意点	「学習のしおり」設問
〔導入〕	1、男女の愛情	I 読後感をメモしてみよう。
〔展開〕	1、読み 2、簡潔な表現 3、構成 (1)登場人物 (2)段落 (3)大意 4、第一段の読解と鑑賞	II A
(1)構成 (2)贈答歌 (3)心情 (4)表現	係り結び 歌の修辭	1、登場人物はだれか。また全文中ではどのような言い方がされているか。 2、いくつのセンテンスからなっているか。 3、全体を二つの段落に分けよ。（手がかりになるものはなにか） 4、それぞれの段のあらすじをまとめよ。
(5)男女の愛情につ 歌の修辭	<p>○板書について——図示を考える。</p> <p>○歌物語の形態を想起させる。 (前段「都鳥」)</p> <p>○「みやび」の追求の準備。 ○近代文学への影響。 (樋口一葉「たけくらべ」)</p> <p>〔贈歌〕 筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎ にけらしな妹見ざるまに 男は人の女をこそ得めVと思ふ 女は人の男をVと思ひ つつ親のあはずれども……</p>	<p>〔B〕A一段V</p> <p>1、①発端②展開③クライマックス④終結に分けて説明してみよう。</p> <p>2、二つの和歌の関係を考えよう。</p> <p>a、「たけ」が「過ぎ」たというのはどういうことだろうか。</p> <p>b、「妹」が「見ざるまに」ということのうらには、どう いう気持ちがかめられているのだろう。</p> <p>c、「くらべこし」の和歌でaと似た気持ちを述べたのは どの部分か。</p> <p>d、女主人公のいいたい気持ちは何か。</p>

いて

5、第二段の読解と鑑賞

(1) 語句

(2) 指示語

(3) 二人の愛情の變化と相互の關係

(4) 「風吹けば」

修辭法

心情

(5) かなし (心情)

〔整理〕

男女の愛情、「みやび」の美意識について話し合う。

答歌

くうべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君
ならずしてたれかあぐべき

女の愛のより深さ……

← 第二段へ

○ 古語辞典で必ず調べさせる。

○ 男女それぞれの心理と行動を対比的に。

○ 「都鳥」で学んだ序詞・かけ詞

○ 中央図書「古文解釈の基礎」を読んで考えさせておく。

e、けつきよく、二つの和歌に共通する気持ちはどうい

うもので、その気持ちが端的に述べられているのは、地の文のうちどこか。

f、二つの歌には「過去」「現在」「未来」にわたる事がらがよまれている。それについて考えよ。(助動詞の意味も考える)

3、係り結びをぬき出せ。(二段についても)

4、心中に思っていることはA Vでくくれ。

△二段V

1、次のことばは現代語と同じ意味かどうか。

a 年ごろ b たよりなく (たよりなし) c けしき

d かかる e 前栽 f ながめ (ながむ) g かなし

2、次の部分はどういう意味か。

a、「もろともにいふかひなくてあらむやは」

b、「さりけれど」(「さ」は前のどの部分をうけている

か、はつきりさせる。)

c、「異心ありてかかるにやあらむ」の「かかる」がどの

部分を受けているのか明らかにする。

3、「風吹けば」の修辭を考えよ。

4、二人の愛情は、どのように變化したか。男女の行動を對比して考えよ。

○ 「学習と研究」の「三」をノートにメモしてみよう。

Ⅲ 参考問題 (本文、設問は省略)

〔一〕「むかし、東の五条に大后の宮おはしましける、西の

対に住む人ありけり。」(四段)

〔二〕「むかし男ありけり。身はいやしなながら、母なむ宮な

りけり。」(八十四段)

B、現代国語 二年普通科（理科コース）「チボー家の人々」（中央図書版） 5時間扱いのうち1時間

単元の目標 1 登場人物の性格・心理・思想などを言動の中から分析してまとめる。

2 青年期の心理の特質について考える。

3 作品の構成・主題を考える。

4 長編文学に親しむ態度を養う。

展開の概略 1 通読して場面の展開を考え、段落を設定し、主題への見通しをつける。（1時間）

2 登場人物の心理・性格・思想などを、その言動の中から分析し、まとめる。（3時間）

3 ジャックの中にめざめている愛に対する憧憬と不安について話しあい、主題をまとめる。（1時間）

展開例 本時は3時間め（展開の概略の2の2時間め）

段落	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	「学習のしおり」の設問
<p>1部 5段</p>	<p>前時の学習の内容の確認 本時の目標の提示 黙読 屋根裏べやでのジャックの心理の 変化をまとめよう。</p>	<p>ノートの点検（登場人物の言動のうちその心理を探る手がかりになる描写が指示通り抜き出されているかどうか。）ほぼ「しおり」の項目順に、その行動や考えの底にあるものを考え、青年期の悩みにも触れる。</p>	<p>14 次の a～g に注意して「少年期と訣別し、青年期にはいったジャック」の心理について考えよ。</p> <p>a つんとくちびるをこがらせた。</p> <p>b Words / Words / Words /</p> <p>c 補えられないものの方へ腕を伸ばす。</p> <p>d これで……生きることができるとだろうか？</p> <p>e おれはいいたい、……おとななんだろうか？</p> <p>f 激しいあこがれ</p>

6段

表現の巧みなところを指摘しよう。
ジャックのアントワーンに対する
態度を考えよう。

チボー氏の人がらについて確認し
よう。

Ⅱ部

1段

フォンタナン家とフォンタナン夫
人についてわかることを簡単にま
とめよう。

2段

ジェンニーの態度とそれに対する
ジャックの心理を考えよう。

心理描写と自然描写の結びつきの巧みなど
ころの指摘。

兄への信頼とその限界などについてあら
すじを参考にしながら簡単にまとめる。

前時にふれたこと(Ⅰ部3段)にさらに
補足する程度にする。

家風 フォンタナン夫人の主人が家庭
をかえりみず行方もしれない。

宗教 旧教と新教の信者の宗教意識の
対立。

夫人に対するジャックの心理のわかると
ころに触れる。

ジェンニーの無関心とそれについてあれ
これと可能なかぎり好意的解釈を試みよ
うとするジャックの心理とを対比させる。

g 人生きるんだV 行動するんだV
△愛するんだVの自己への決意は、
ジャックの人生にどのようなようにあらわ
されたかを、あらすじなどを参考に
しながら調べてみよう。この三つの
ことばの相互関係は。

16 「フォンタナン」がなぜのろわしい名
なのか。

17 西欧における宗教(宗派)と家風との
関係を調べよ。

18 「ジャックは身動きもしなかった」に
ついて。

a その電報は、実際にだれがうったも
のか。

b どんな意図でうったのだろうか。

c この時、ジャックはどんな気持ちだ
ったろうか。

21 b なぜジャックは夫人の祝福をすなお
にうけとれなかったのか。

21 ジャックの心理について考えよ

a (省略)

b (既出)

c ジェンニーの態度をジャックはどの

次時予告

引き続き、しおりを参考にして
同様な作業をしてくるように指
示しておく。

ように解釈したか。

d 「歯をくいしばった」とはどんな気
持ちか。

19 ジャックを迎えるジェンニーの態度を、
ジゼルと比較してみよ。

20 ジャックのジェンニーに対する態度を、
ジゼルに対する態度と比較してみよ。

(広島県立賀茂高等学校教諭)